

## 徳島県自殺希少/多発地域における調査についてのネットワーキングと意見交換会

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科  
医療マネジメント専修 後期博士課程 1 年  
岡 檀

### 【はじめに】

日本では過去 11 年間、毎年約 30,000 人が自殺により亡くなっている。年齢階級別にみた場合に 65 歳以上自殺者の占める比率は高く、高齢者人口の増加が進む日本において予防対策は切迫した問題となっている。

関連する先行研究を概観すると、自殺多発地域を対象とした自殺危険因子の研究は多く行われているが、自殺希少地域における自殺予防因子に関する研究はほとんど行われていない。従来と異なる視点で自殺希少地域を調査することにより、新たな示唆を得られる可能性があると考え、筆者は前年、高齢者自殺の希少地域のひとつである徳島県旧海部町(現・海陽町)でのフィールドワークを実施した。

### 【目的】

前年に調査した徳島県旧海部町での地域特性と、同県内の自殺多発地域-旧東祖谷山村(現・三好市)の地域特性との比較対照を行い、その結果から自殺予防に寄与すると思われる因子を探索することを目的とする。

新たな調査研究にさきがけ、同地域の行政や医療福祉関係者、住民代表らよりヒアリングを行い、研究協力のネットワークを構築するとともに、具体的な調査方法についての意見交換を行った。

### 【意見交換会の実施】

日時:2009 年 5 月 13 日(水)

場所:徳島県海陽町

参加者:海陽町役場保健福祉課課長、同課保健師、精神保健福祉師、元養護学校教員、厚生労働省委託事業「若者自立塾」主宰者、保育園長、保育園理事長

日時:2009 年 5 月 14 日(木)

場所:徳島県海陽町

参加者:海陽町教育長、小学校校長、同教員、中学校校長、同教員、同生徒会役員、文部科学省委託事業「ふるさと教員制度」教員、海陽町役場社会保障担当職員

日時:2009 年 5 月 15 日(金)

参加者:元海部町長、商工会事務局長、町史編集委員会委員長

日時:2009 年 5 月 16 日(土)

場所: 徳島県海陽町  
参加者: 相互扶助組織「朋輩組」メンバー

日時: 2009年5月17日(日)  
場所: 徳島県三好市  
参加者: 三好市東祖谷支所保健師、町おこし「活彩祖谷村」代表、民生委員、小学校教員

日時: 2009年5月18日(月)  
場所: 徳島県三好市  
参加者: 三好市東祖谷支所長、支所職員、ケアマネージャー、理学療法士、ヘルパー、デイケアセンタースタッフ、デイサービススタッフ、施設利用者、三好市議会議員、診療所医師、精神科病院院長、一般住民

日時: 2009年5月19日(火)  
場所: 徳島県三好市  
参加者: 三好市保健所職員、婦人会会長、重要文化財保護活動関係者、子育てサークルスタッフ、一般住民

日時: 2009年5月20日(水)  
場所: 徳島県徳島市  
参加者: 徳島県精神保健福祉センター所長、同職員、前徳島県警察牟岐署長

## 【まとめ】

前年にフィールドワークを行った旧海部町においては、高齢者の自殺率が突出して低いという点に着眼して調査を進めたが、全年齢階級で見た場合にも同町の自殺率は非常に低い。すべての住民にとって自殺の起こりにくい—ストレスのかかりにくいコミュニティの特性を有しているという仮説を持って、観察やインタビューの対象を拡大していくことで意見が一致した。

具体的には、働き盛り世代や若者、中高校生の意識や行動、また、次世代に継承していく文化として教育現場で重要視されているポイントなどを聴取していくこととなる。インタビュー以外に住民アンケート実施の可能性についても意見交換を行い、今後の課題として継続協議していくこととなった。

自殺多発地域である旧東祖谷山村は、県西部の険しい山間部に位置し、医療をはじめとする主要な社会生活基盤へのアクセシビリティが不良である。同村の保健福祉担当者らは自殺問題への意識が高く、住民の生活環境改善と併行して取り組む姿勢が見られた。僻地の住民ともよく連絡をとり、頻繁に巡回を行っている。

同村の高齢者のうつ問題は保健福祉分野の重点課題のひとつであるが、関係者らは、介護保険制度導入以後に状況が改善されているという印象を持っている。制度導入以後は、独居高齢者をはじめとする高齢者の生活に介入していくことがより容易になり、見守りとコミュニケーション、異変に対する早期発見が促進されたということである。

介護保険制度の前後で高齢者のうつや自殺にどのような変化が生じているかを分析してもらいたい、との要望が、同村の保健師や精神科病院、診療所医師らから出された。